

令和4年度 議会運営委員会 行政視察報告書

1. 視察日程 令和5年1月19(木)

2. 視察先及び視察内容

取手市

オンライン会議について

3. 参加者

委員長	<u>黒澤佳壽子</u>		
副委員長	<u>芹沢修治</u>		
委員	<u>勝間田博文</u>	<u>高橋利典</u>	<u>川上秀範</u>
	<u>阿久根真一</u>		
議長	<u>田代耕一</u>		
副議長	<u>小林恵美子</u>		
事務局	<u>芹沢節巳(議会事務局長)</u>	<u>岩田晴美</u>	
	<u>桐生守</u>		

4. 視察先対応者

取手市議会議長	<u>金澤克仁</u>
副議長	<u>落合慎太郎</u>
議員	<u>赤羽直一</u>
事務局長	<u>吉田文彦</u>
事務局次長	<u>岩崎弘宜</u>
事務局	<u>高橋弘方</u>

(当局) 藤井信吾取手市長

鈴木部総務部長

安心安全対策課 齋藤課長、倉持氏、三浦係長

## 5. 視察内容

### ■ 『オンライン会議について』

令和5年1月19日（木） 13:30～16:00

#### 《視察研修の目的》

- ・市議会申し合わせ事項第26「オンラインでの会議への出席について」が追記された。今後の運用していく上で調査・研究が必要である。
- ・ICTで議会運営がどう進んでいるかを先端であると言われている取手市と比較して本市の改善点を探す。

#### 《視察先の概要》

取手市人口 106,143人

取手市議会

- ・議員定数 24名（現員数 23名）
- ・会派数 5
- ・常任委員会 3（総務文教常任委員会、福祉厚生常任委員会、建設経済常任委員会）
- ・その他、議会運営委員会、デモテック戦略特別委員会、
- ・議会事務局 7名

◎令和2年7月からタブレット端末を導入

## 《視察内容》

「オンライン会議について」をテーマとし先進事例である取手議会へ伺い、ICTを活用した取り組みについて伺う。

事前に提出していた質問に対し回答を頂きながら、その回答に対して再質問があればその場でQAを行う形式。

委員から積極的な質問があり、予定時間を1時間10分ほど超過してしまっただがその分実りある視察であったと思う。

集合形式(対面式)の会議を前提にしながら、それが諸事情により適わなくなった場合の対応策について、具体的・詳細に検討し取り組んでいる。様々な状況により、少しでもスムーズに会議が進行できる様、前向きに挑戦されていた。

### <機器、環境>

- ・議員貸与のタブレットは全額公費負担(機種はipad pro)であり、貸与以前(R2年7月まで)は個人所有の機器を使用していた。
- ・議場への個人所有のPC、タブレット、スマホ等の持ち込みも可。
- ・当局側は文章作成が多い為MSのsurfaceを使用。
- ・使用しているアプリケーションは、SideBooks・LINE・Zoom・茨城県等が作成しているアプリ。

### <オンライン会議>

- ・オンライン会議はZOOMを利用しており、市でアカウントを5つ持っていて、その内議会事務局で1つを使用している。
- ・対象は本会議以外の委員会・全協・議会感染症対策会議・議会災害対策会議・会派代表会議、また、会議外では、議案事前説明・一般質問通告受付及び順序決定・お祝い動画メッセージ・会派説明・各種打ち合わせ・質問等ヒアリング・オンライン視察等にもその範囲を広げた利用がなされている。
- ・ZOOMのホストは議会事務局とし、委員長も登庁せずに会議が運営できる体制を整えているが、議事進行者である委員長はなるべく会議室に出席する。
- ・R4年2月より自己都合(疾病・妊娠・出産・介護・看護・育児など)の場合も委員長の許可を得てのオンライン出席を可とした。
- ・オンライン会議申し合わせ事項を整備しそれに準じた運営を行っている。
- ・オンライン会議の時は、会議室出席委員も1人1機器でZoomに入室し、顔が分かるようにしている。
- ・SideBooksの評決システムの機能を使いオンラインにおいても協議件目に対し明確に決を採ることができている。表決時は、オンラインの場合「意義のある方は画面に分かるよう挙手願います。」と委員長が言って、態度で表す方法をとっている。

- ・ 360° カメラを活用することで当局側の反応もリモート出席者側に可視できるようにしている。
- ・ 10分以内であればオンライン会議中での離席も可とされている。  
(子育てや介護中の議員にとっては非常に助かるルール)
- ・ 操作の習熟は、最初に業者による研修会を行い、後は議会事務局職員によるフォローアップ研修をしてきた。
- ・ 委員会等での議事進行委への課題は特になく、委員会等での議事進行委への課題は特にないとのこと。

<取手市議会における ICT やオンラインを用いた取り組み>

- ① 会議 ② 現地視察 ③ 広聴・広報 ④ 災害対応 ⑤ 研修 ⑥ ペーパーレス
- AIの活用 (音声認識システム・会議録視覚化システム・要約システム)

## 《考 察》

議会改革度調査において2年連続全国1位を誇る取手市議会の取り組みは参考になるところが多くあった。

ICT機器の積極的な活用と様々な議会運営上に工夫が見られ、まさに先進的な事例を見聞き出来た非常に有意義な時間であった。オンライン会議を導入することは経費節減、時間の有効利用、会議への出席率向上などメリットは多岐に渡り、今後当議会へも積極的に導入していくべきと考える。

しかしながら、全てを取り入れるのではなく、当市の状況に合ったシステム構築を独自に検討する必要があると思われる。

会議で議論をする場合は、議員が参集しての集合形式(対面方式)が基本であると考ええるが、災害や病気・妊娠等で出席出来ない等の事情でどうしても一同に会する事が出来ない場合など、社会的状況で止むを得ない場合、止むを得ない事情を有する議員が存在した場合にオンライン会議を開催することが必要となってくると考える。

そのためにも、オンライン会議のルールを作り、実践していく事が必要であると感じる。

当市もオンライン会議には ZOOM を活用すると思うが、その方法が最善と考える。まずは ZOOM アカウントを当市でも持つことが必要であると考えます。

取手市では、オンライン会議を行う際に自前のPCまたはタブレット機器を別に各議員が準備し、配布されている iPad と同時に使用しながら会議を行っている点などを見るに、相当の訓練(練習)が必要とされると感じた。機器の操作に追われて会議の内容が頭に入ってこなければ本末転倒になってしまうことも考えられる。議員全員の操作習熟のため、試行しながら課題をクリアしていくことが必要である。

オンライン視察については、現地に赴いて、見て聞いて感じる事が本来の姿と考える。臨場感や雰囲気、感情など映像だけでは伝わらないものも多々あることを十分に認識したうえで、当市としてそれぞれの状況に見合った形で取り組んで行くべきであると考えます。

今回の視察を通じ取手市のオンライン会議は ICT による議会改革の一部でしかないことを新たに認識出来たことより、当議会としても議会運営としての本筋を見失うことなく視野を広めた積極的な ICT 活用を推進していくべきと考える。

取手市における「デモテック」の考え方を参考に、当市らしく、取捨選択して取り入れ、検討を重ね、前進していきたい。

《写真》



